

1 「獣医師の魅力伝える」職業講話の取組

上北地域県民局地域農林水産部十和田家畜保健衛生所

○ 佐藤 郷子 中村 直子
 佐藤 馨 中島 聡
 方波見 将人 藤掛 斉
 須藤 隆史 佐藤 公伸

1、はじめに

近年、継続的な小動物志向からくる、産業動物や公務員獣医師不足がみられ、県内家畜保健衛生所（以下、家保）の獣医師数は年々減少しており、当初においても過去10年で54名から45名に減少し、また管内産業動物獣医師の平均年齢が61歳と高齢化が進んでいる。

そこで、獣医師の退職や採用減少のために獣医師不足となる原因の一つとして、小動物診療と比較し、公務員獣医師や産業動物獣医師の認知度が低いと感じ、当所では図1に示すように平成22年度から高校生に対して、24年度から中学生に対して、29年度からはさらに小学生に対し、「獣医師の魅力伝える」職業講話を実施している。特に小学校での内容が好評であり、評判を聞きつけた学校側からの開催要望もあり、実施回数が増えた。今回、我々が魅力を伝えるために工夫した取組み内容とその反響について紹介する。

2、職業講話の内容

職業講話はスライドによる座学と家保業務を体験する実習を組合わせて実施した。

座学では獣医師職域の多様性、公務員獣医師について、やりがいや適性、獣医師となるための進路について説明し、中高生には、実習よりもスライドによる座学を中心に行った。今年度からは、より臨場感があり分かりやすい内容となるように動画を作製、座学で使用し、より進路に直結するよう、大学費用・修学資金制度・収入等の資料を配布した。

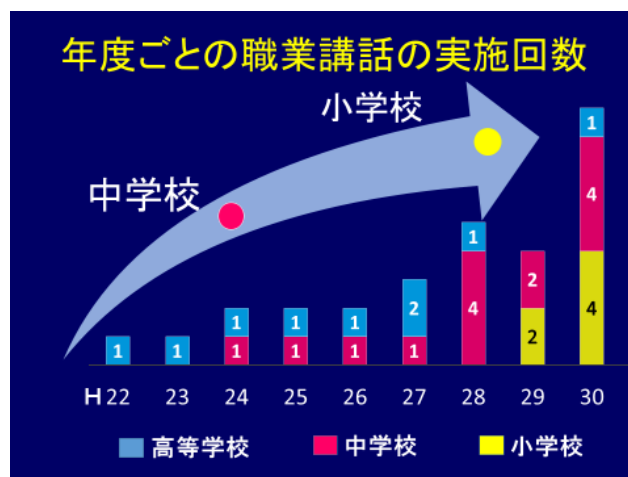


図1 職業講話の実施回数

一方で小学生の職業講話では実習のウェイトを多く実施した。すなわち、家保の業務の動画を含むスライドによる座学を行い、その後実寸大牛パネル・動物の心音の比較・細菌検査などの体験を盛り込んだ実習を

中心に行った。動画の再生は、採血シーンで痛さを想像する可能性もあるため、腐蛆病検査等採血以外のシーンを使用した。

アンケートと質疑応答はすべての生徒に対し行った。

3、体感を重視した実習について

特に小学生に対し、興味や関心を引き出すように体験を盛込んだ実習を行い、視覚・聴覚・触覚を刺激するように工夫した。

① 実寸大牛パネルによる視覚刺激

視覚を刺激して関心を集める工夫として、実寸大牛パネル（以下、パネル）を作製した。材料は軽くて丈夫、加工が簡単などの理由から、押出し発泡ポリスチレンを用い、体高 140 c m の乳牛を作成し、大きさや心臓、子宮、腸の位置を説明した。牛は車で持ち運べるよう、3 分割組み立て方式にした。図 2 に示すように、ビニールシートをめくるに従い、骨格や内臓の配置がわかるようにした。このパネルを使用して、妊娠鑑定のデモンストレーションや、乳牛の体重や乳量クイズを行った。



図 2 実寸大牛パネル

②動物の心音の比較による聴覚刺激

聴覚を刺激する実習として、聴診器を使

用した。実習準備として、レコーダーと聴診器を接続し、馬・猫・大人・1 歳児の心音を録音した。実習では、実際に生徒自身の聴診を行い、さらに予め録音しておいた音源との比較で馬・大人・生徒・1 歳児・猫の順に心拍が速くなることを示した（図 3）。



図 3 心音の比較

③細菌検査実習による触覚刺激

細菌検査実習では、まず細菌について理解するために人形や紙芝居を用意し、伝染病予防の基本となる「衛生」や「微生物」について説明した。その後、生徒自身の手のスタンプによる培養検査体験を行った。培地は B H I で作成し、37℃ 24 時間培養後の写真を後日メールで送信し、学校での手洗いなどの啓発に使用してもらった（図 4）。



図 4 細菌検査実習

4、アンケートと質疑応答について

職業講話の最後には、アンケートと質疑応答を行った。中高生へのアンケートは、家保の業務はよくわかったか、将来の職業についてどの程度考えているか等の 10 項目、小学生にはより簡単に今日の話をして聞いて獣医師になりたいと思ったか、内容で面白かったところはどこか等 4 項目を尋ねた（図 5）。回答数は高校生 47・中学生 166・小学生 119 であった。

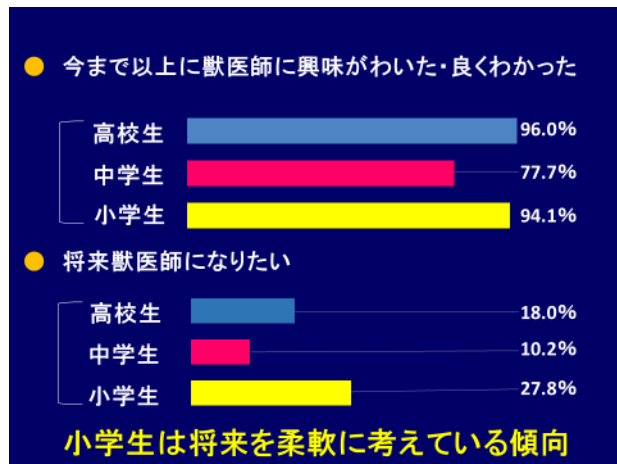


図 5 アンケートについて

質疑応答では、「獣医師の仕事の楽しいところとつらいところは？」など、獣医師に関する質問から、「鶏は一日に何個卵をうみますか？」など日々疑問に思っている動物の質問・幅広い内容の会話となった。また、

面白かったところを尋ねると、生徒によっては、猫の心拍の速さ・紙芝居や人形での微生物の説明・牛の大きさ・みつばち等様々なポイントがあげられた。

5、生徒および教師からの感想

感想を抜粋して紹介すると、次のとおりである。「やりがいがあり、かっこいい仕事だと思う、自分も目指したい。」「獣医さんは動物だけでなく、人間の健康も守っていてすごい。」「動物が病気になったら、感染を拡大させないために殺処分したり、埋めたりするというのにびっくりした。それを乗り越えてこそその獣医師なんだと実感した。そんな獣医師をかっこいいと思うことが出来てよかった。親にも、伝えて欲しい。」

また、教師からは自分たちも初めて知る内容で、面白かった・次年度も開催して欲しいと要望があがった。

6、まとめ

視覚・聴覚・触覚を刺激した、実習に重点を置いた職業講話は、生きた動物が与える感動には及ばないものの、実際に動物を搬入する事が難しい場合でも対応可能であり、獣医師のイメージを描く情報として有効であった。生徒たちの多くは、体感刺激型の実習と、この地域が畜産業が盛んであることに驚いていた。また、さまざまな興味関心に触れるよう、講座内容の幅を広げた結果、獣医師のみならず、生き物について興味を抱くきっかけともなった。

今後も「獣医師の魅力を伝える」職業講話を続けながら、将来の獣医師確保に向けて対策を検討していきたいと考える（図 6）。



図6 まとめ